

M j パフォーマンス
mj performance

1K07B165 - 5
指導教員 主査 寒川 恒夫 先生

信朝 宏樹
副査 石井 昌幸 先生

【目的】

現在、世界には、音楽アーティストはごまんと存在する。そんな数多いアーティストのなかでも唯一、逸材と感じたのがマイケル・ジャクソンである。彼の名前を知らない人はいないといっても過言ではない。現在、音楽技術は、ますます進歩しているが、彼ほど人々をとりこにし、惹きつけることの出来るアーティストは他にはいない。現代の技術にも劣らない彼のパフォーマンス能力。一体どこに人々を惹き付ける要素があるのだろうか。歌、ダンスをはじめ、数々の記録、功績を生み出してきた彼であるが、その中でも、彼の独特なパフォーマンススタイルがどのように誕生、完成したのかを、明らかにする。

【方法】

本研究の調査方法は、文献、インターネット、CD、DVDを使用して調査する。文献、インターネットからはマイケル・ジャクソンの歴史、経緯の詳細を。また、CD、DVDを使用し実際のパフォーマンスを検証するために、音、映像を確認しながら比較を行う。

【結果 考察】

レコーディングノウハウについては、ノウハウやアイデアを自ら編み出しだし、ボーカルの多トラック化、それらを統制し組織化を行った。それらすべてが、以降のモダンR & Bにおけるヴォーカル・プロダクションの礎となり、広くポピュラー・ミュージック全体に多大なる影響を及ぼした。ボーカルでは、マイケル・ジャクソンの特徴的な歌唱法（息継ぎ）ウィ使用した歌唱法のテクニックは完璧に完成に至るまでに、アルバム（EPIC）‘79 . 8. 10「Off The Wall」から約5年の歳月を掛け、このテクニックを完璧にし、計算しつくされまた、意図的に行っているということが明らかになった。ダンスパフォーマンスにおいては、ジャッキー・ウィルソン、ジェームス・ブラウン、ジェフ

リー・ダニエル。この3人がマイケル・ジャクソンのダンスパフォーマンススタイルのベースとなったことが明らかとなった。ジャッキー・ウィルソンからスピンを、ジェームス・ブラウンから脚のステップを、ベースとなっている動きはジェフリーダニエルから取り一つの形になっている。天才と言われるマイケルも初めは人の真似から入ったということである。しかし、マイケルは、そこにプラスして新たなパフォーマンスを加えることにより、自分だけのオリジナルスタイルが完成したのである。

また、世界で初めてライブ中のパフォーマンス最中ステージ上の至るところで移動しながらも何かに体を引っ張られたように演出可能な留め金具の付いた特性のペアの靴を履くことによって靴の着用者が自分の重心バランスを超えて体を強引に傾けることを可能とするシステム（ゼロ・グラヴィティ）を開発した。

一人の個人の人間ではなく、一流のパフォーマーとして自身を演じる必要性があったマイケル・ジャクソンは、幼い頃から魅せ方（パフォーマンス）を体で自然に覚えた為、ある意味、その表現は当たり前なものとして行っている為、理解に苦しむ動作は舞台上のマイケル・ジャクソンの演技であり、またそれがマイケル・ジャクソンの私的な表現ではないといいことがわかった。マイケル・ジャクソンは音楽というジャンルで、可能な最高レベルの表現を詰め込んだまさに唯一の人材であり、マイケル・ジャクソンはアーティストとして類を見ない、まさに音楽界のパイオニアであることが明らかとなった。マイケル・ジャクソンは、自らのパフォーマンスにより人間の可能性を広げたことから、これからのアーティストが、さらに常識を覆すことが今後の課題である。またこのことは、音楽業界にかかわらずパフォーマンスという点ではスポーツにも同じことが言える。

